



# 祐介の目

大田ゆうすけ  
(福山市議会議員)

No.31

毎月1日号に掲載

人が車で来場するため、駐車場が不足して周辺の渋滞もひどい。跡地に移動すれば、市中心部での開催ゆえにコース設定も多様化できるし、参加者の多くは自転車や公共交通機関を利用し、レース後の打ち上げ等で周辺も潤うだろう。一万人規模の大会も夢ではない。

## 競馬場跡地利活用に ついて

競馬場跡地利活用基本構想がほぼ固まった。基本構想には、「市民が幅広く気軽にスポーツ・健康づくりを楽しめる拠点とする核施設として、老朽化した市体育館を建替え新たな総合体育館を整備する。」

また、芦田川との一体的な活用を図り、市民がウォーキングやジョギング等を気軽に楽しめる場を整備することも検討する。」とある。この基本構想が固まれば26年度より具体的な「跡地利活用基本計画」を策定し、その後設計・施工、そして完成は約6年後の予定だ。

さて、芦田川河川敷と一体的なウォーキングコースが完成したらどうなるか？ 私は福山マラソンの会場を競馬場跡地に移動してはどうかと思う。今大会は約8千人が参加し、私もハイフマラソンに出場して1時間56分で完走した。ところが会場の竹ヶ端陸上競技場には多くの

次に総合体育館の新設に併せて、緑町のローズアリーナを通年プールにしてはどうだろう。現在、夏はプール、その他は体育館(アリーナ)とするため、春と秋に約2週間、年間1ヶ月は閉めて入替工事を行い、その費用は年間約千四百万円かかる。老朽化した水深調整設備の改修費用も年間数百万円必要であり、過去の包括外部監査人からも「通年プール」が提案されている。

福山では長年にわたり小学校6校の対抗水泳大会が開催されるなど、もともと水泳の盛んな地域だ。年間を通じて中国地方でも数少ない長水路(50mプール)で練習できれば、著しい競技力の向上が期待できる。ソチで金メダルを取った羽生選手の背景は、通年練習可能なスケートリンクの存在抜きには語れない。ぜひ福山からも水泳のオリンピック選手を輩出したい。